

# トラブル防止へ事例集

## 「安心ネット・とちぎ」製作

### 地域の知的障害者 もっと理解を

「公園に行ったら警察に通報された」「万引と間違われた」。宇都宮市の重度知的障害者の誤認逮捕問題をきっかけに発足した障害者団体の連絡会「障害のある人のための安心ネット・とちぎ」は十三日までに、県内で知的障害者らが巻き込まれたトラブル事例を集め、再発防止の啓発資料にまとめた。近所で起きるトラブルが最も多く、警察関係も少なくなかった。「障害の特性を知っていれば、防げたケースが多い」として理解を求めている。

### ごみ見られたくない

グループホームに住む知的・精神障害の男性は、ごみ十数袋を河原に捨てたところを市民に目撃され、警察に通報された。自分のごみを他人に見られたくないというこだわりがあったという。

「安心ネット」は県知の障害者育成会など十二団体で昨年七月に発足。事例は知的、発達障害者

### 「はい」だけで供述調書

20代の知的障害の男性は「痴漢」と疑われ警察に連行された。供述調書を見た親が、本人が話せる内容ではないと指摘すると、警察官は「障害者として扱うと自尊心を傷付ける。一般人として扱った」。取り調べで「はい」と答えた部分が、男性の供述のようにまとめられたようだという。

らの保護者や福祉施設職員を通して計百三十四例が集まり、宇都宮大教育学部の協力で集計した。「近所の家に入り込んだり、近くの小学生の

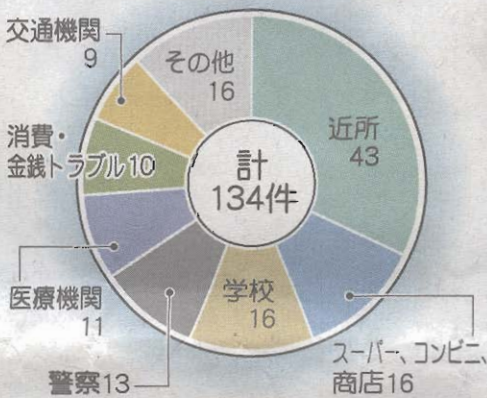
### レジ分からず素通り

知的障害のある自閉症の10代の女性は、スーパーで商品をかごに入れたままレジを通り過ぎた。袋詰めして店を出ようとしたところ、店員に注意された。店内にいた母親が気付いて謝罪。店員も障害に気付いていたため万引と思われなかった。

親に警察通報された。など「近所」でのトラブルが四十三件(32%)で最多。次いで「店で電池を触っていたら万引と間違えられた」など「スーパー・コンビニ・商店」が十六件(12%)、「学校」でのトラブルも十六件だった。「警察」は誤認逮捕問題も含めて十三件(10%)。訪問販売や借金な

### 知的障害者らのトラブル事例

(安心ネット・とちぎ、宇大教育学部調べ)



どの「消費生活」関連は十件(7%)だった。障害者自立支援法の施行を受け、入所施設を出る地域で暮らす障害者は今後、確実に増える。安心ネットの鈴木勇二・副編集委員長は「トラブルの実例を通して、地域住民に身近な問題として受け止めてもらいたい」と訴えている。

一方、警察には「公権力を持ちながら丁寧な調べ方をしていないところがある。事件が起きた場合、その後の対応が重要」と障害特性に応じた取り調べを求めている。

主な事例を「障害のある人のくらしを守るため」に地域生活支援のための「手引」に掲載。県内の行政機関や警察署などに配布し、安心ネット主催の研修会でも活用する。

問い合わせは、同ネット事務局(県知的障害者育成会内)、電話028・624・3789へ。